

梵天行事、お祓い行事が神事であることで、次のようなご質問がありました。
「仏事後の行事等への参加について、どう考えたらよろしいでしょうか。」
このことについて、事務局としての考え方は次のとおりです。

1 神道・仏教それぞれの側からの回答（直接聞き取りしております）

(1) 神道の宮司さんからの回答

・忌明け後から日常生活に復帰します。その時点と考えてよろしいでしょう。

(2) 仏教の住職さんからの回答

・故人が亡くなり、忌中（喪に服する期間）を経て、四十九日をもって忌明けとします。
遺族は忌明けから日常の生活に復帰します。

2 忌明けについて

（weblio 辞書より <http://www.weblio.jp/content/%E5%BF%8C%E6%98%8E%E3%81%91>）

・忌中を終えること。一般に四十九日（仏教）または五十日祭（神道）をもって忌明とし、遺族は日常生活に復帰する。古くは一周忌をもって忌明けとしたこともある。

↓

服忌令（ぶっきりょう）という戦前の法令。
皇室では、戦前は皇室服喪令という法令があったが、現在はもう廃止されている。しかし、皇室の運用では、いまでもこれに準じているらしい。この服喪期間は、ほぼ、服忌令と同様となっている。

「昔は1年喪に服したものだ・・・」の元になっているもの

3 事務局としての考え方

忌明けまでが非日常で、忌明け後は日常となるようです。

当会では、日常生活を送っている皆様のご参加・ご協力をお待ちいたしております。